

《システム運用問題》

⇒ 導入したものの活用されていない

実現 A1

課題

- ① ・利用せざるを得ない環境づくり。
・システムそのものの簡素化。
・使用することのメリット周知。
- ② ・マニュアル整備(簡素化)。

システムの簡素化(アプリ導入)の結果、利便性が向上し、学生のシステム利用率が向上する。
その結果、大学・学生双方の連絡が円滑になり、学生支援に結ぶことができる。

西大

- ① 運用ルールが整備されていない。
- ② 運用ルールが周知されていない。
- ③ メリットが伝わっていない。
- ④ システムが使いづらい。

実施施策

- ① システムからアプリへシフト (Web版とアプリ版併用)
⇒ 導入するにあたって学生を巻き込み (共同開発、意見をもらう)
⇒ Qアプリ (ボタンを押せば見たいページにジャンプ)
- ② 学生を巻きこんで、学生向けのマニュアル作成

《与えられるだけでは他人事》

行動計画

- ① 要件定義
⇒ ワークショップ発足 (システム部門、教務部門...)
→ 学生もメンバーに入れる
- ② 構築
- ③ 学生の利用率の検証 (ふりかえり)

現状問題

1. システム運用問題

<事例>

- ・ポータルサイト
- ・ポートフォリオ
- ・学内システム
- ・LINE WORKS
- ・manaba

⇒ 導入されているが、活用されていない

2. 設備的な問題

<事例>

- ・WiFi容量不足
- ・学生へのPC、タブレット配布が遅れている
- ・学内事務書類の大半が紙ベース
- ・事務系PCの更新時期

理想

- ・有効的に活用し、
業務効率化、
学生支援の充実に図る
- ・情報の共有が実現できる

- ・設備が充実しており、
快適な学修環境を提供
できる
- ・業務効率化によって、
労働環境が改善される

要因・背景 A1

- ① 運用ルールが整備されていない
- ② 運用ルールが周知されていない
- ③ メリットが伝わっていない
- ④ システムが使いづらい

- ① 予算の問題
- ② 本当に必要なのか？
(ニーズの問題)
- ③ 紙ベースの方が
効率的ではないか？
→ データの信頼性が
得られていない